

板橋区 旧粕谷家住宅



古民家情報

建築年代: 享保8年(1723)
規模: 桁行9.5間・梁間6間
構造: 食違い四つ間取り
 寄棟造り・茅葺き
東京都指定有形文化財(建造物)

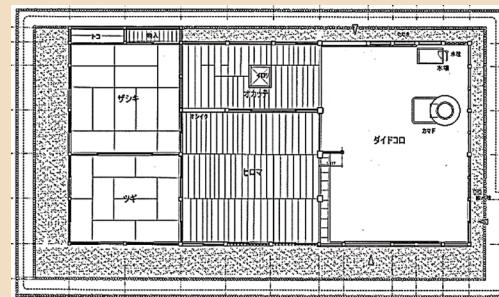
粕谷家は、徳丸脇村名主粕谷家から浅右衛門が、享保11年(1726)以前にこの地に隠居し、別家となったことに始まります。その際に隠居料を与えられ、慶応元年(1865)における持高は30石でした。また、幕末にかけて徳丸脇村の年寄・組頭役を務めました。

建物は、桁行約16.25m、梁間約8.2mの寄棟造りの茅葺きです。平成29年度まで実施した復元工事によって、南東角の柱組から「享保八年(1723)卯二月三日…」の墨書銘が発見されました。このことから建築年代が判る建造物としては都内最古級のものであり、移築されずに建築当初の場所に建っていることを加えると、非常に重要な文化財と考えられます。

ご利用案内・アクセス

開 9:30～15:30(月曜休園・月曜日が祝日の場合は翌日休園) **料** なし
所 板橋区徳丸7-11-1 **交** 東武東上線「成増」駅北口から国際興業バス(赤羽駅西口行)「紅梅小学校」下車徒歩3分
問 板橋区教育委員会生涯学習課文化財係 Tel.03-3579-2636 Fax.03-3579-2635

その1! 間取り



平成19年に板橋区指定の有形文化財となり、その後、同30年に東京都の有形文化財に指定されています。

当住宅は、享保8年(1723)に建立され、村の組頭を代々務めた上層農家の住居です。柱・梁などの

痕跡から、建立から現在に至るまで4度の改修が行われたことがわかり、平成27年から同29年までの復元整備工事によって建築当初の姿に復元されました。

間取りは、北西に12畳半のザシキ、南西に10畳のツギ、その東に3間四方規模の板間(ヒロマ)があります。この板間の規模は農家の一室としては最大級のものといえます。板間の北のオカッテを加えると、4室からなる食違い四つ間取りとなっています。また、その間取りの東に広い土間のダイドコロが配置されています。板間と土間の境には3本の大黒柱があり、柱の間に建具がないため板間と土間を連続させた空間を構成しています。また、板間には床の間の源流とされる押板(オシイタ)と、南面にはしし窓を備えるなど、関東地方における江戸中期の古民家の特徴が認められます。



ザシキとツギ 板間(ヒロマ)と大黒柱 土間(ダイドコロ) しし窓

その2! 特徴的な屋根の意匠



茅葺き屋根は、小屋梁を軒先に長く伸ばして、軒天井を設け、梁の先端には、寺院建築を思わせる線型彫刻の装飾が施されています。また、屋根はわずかな軒反りをもたせてあり、家の格式を高めるため、社寺建築の技法を取り入れた初期の例といえます。